

- ❖ 師と同じ覚悟と行動の人のみを真の弟子と呼ぶ 大久保俊輝
- ❖ 江戸琳派の里「雨華庵」(第3回) 酒井抱美
- ❖ 家庭で絵本を読んであげましょう(第4回) 浜島代志子
- ❖ 子どもの「道徳性」を引き出し、主体性を育てる
「動徳」を 坂本建一郎
- ❖ 宮古島市立上野中学校 訪問記 沼野文子
- ❖ 彼との出会いに感謝 川原容一
- ❖ 学校のちょっといい話㉙ 鍵山智子
- ❖ 編集後記

師と同じ覚悟と行動の人のみを真の弟子と呼ぶ

麗澤大学教職センター長
モラロジー道徳教育財団特任教授

大久保 俊輝



世界で一番青年が自死する国、殺人事件の半数以上が家庭内で起きる国の現状をあなたはどう説明しますか。そこで提案です。まずは評価(通知表)を変えるのです。何故なら校長裁量だからできるのです。知徳体ではなく「徳」

教育の目的は、子どもの幸せのはず。そうならないない現実を私たちは知っています。笛吹けど踊らずになつている現状の道徳をどう説明しますか。『論語』には素晴らしい内容が書かれてはいますが、その孔子を育てた国はどうでしょうか。孔子は戦乱の時代に命の危険を承知で下野し辻説法をしました。我が師の廣池千九郎も、戦争回避の文書を国の上層部に何度も送っています。当時は国への反逆ともとらえかねられず、投獄されることも覚悟しての決意の行動です。その弟子たちは師の思いを我が事として連綿と伝えてきたのです。しかし、この伝え方に大きな異変が起きているのです。それは師と同様の「覚悟」と「行動」をしないで、読解道徳の場とし、私物化してはいなかということです。これでは「理屈」や「手段」を伝えることが出来ても行動を呼び起こす魂の触発は出来ません。

を先にして最初に徳の部分を記述して徹底して励ますのです。そこには「道徳で学んだことをこのように行動した」と記載し、後段から学習の状況や課題を書くのです。いわゆる人物行動評価を先にするのです。私はそうして保護者の意識改革を図り、不登校を激減させました。今回、道徳教育研究会が全国で六十回開催されました。日本の子どもたちのために「道徳で人と社会を幸せに」のスローガンのもと、モラロジアンの方々が手弁当で会場確保と運営の一切を引き受け貢献されています。他の教科部会ではとても出来ないことです。

しかし、その形骸化が気になります。それは、年々開催のたびに、いじめが減り、不登校などの課題が解決したという結果が出なければ、先生方は望んで参加しようという思いにはならないからです。若い先生方に伝えるべきは、道徳授業の技術ではありません。人としての生き方を日々起きている出来事から「気づき」「考え」「行動する」実学となる道徳が必要なのです。そのためには講師は、肩書きでなく日々社会の諸課題に触れながら共に苦しみ、共感し、同苦を惜しまない行動の出来る腹の決まりた講師でなければ、人々を根底から触発する講話は出来ないはずです。わが師千九郎先生は、亡くなる間際まで、筆も持たれて「人心開発救済」を貫かれました。私は不肖の弟子として、結果の出せる道徳すなわち「動徳」を普及し、師の正しさと偉大さを「行動」を持って証明して参ります。

江戸琳派の里「雨華庵」（第三回）

NPO法人江戸琳派繼承会理事長 酒井 抱美

一、「雨華庵」とは

雨華庵は、江戸琳派の開祖である酒井抱一が一八〇九（文化六）年十二月十五日、四十九歳の時に下谷金杉大塚村（現在の台東区根岸五丁目付近）

に住居兼画房として、一八二八年（文政十一）年に亡くなるまでの二十年間、様々な表現活動の拠点とした場所です。

入居数年後に甥の酒井忠実である酒井抱一が一八〇九（文化六）年十二月十五日、四十九歳の時に下谷金杉大塚村（現在の台東区根岸五丁目付近）

にあたる一八一五（文化十二）年にこの雨華庵にて執り行われました。

希望、願望すべてが込められた非常に前向きな姿勢を現す言葉だと感じます。

「雨華」とは諸説ありますが、大願成就した際に、雨のごとく蓮華の花びらが舞い落ちてくる喜びの有り様を現わしているとのことで、抱一の夢、

や落款にこの庵号を用いるようになりました。また三十七歳で姫路城を出て仏門に入り「等覚院文詮暉真」という法名を持つ抱一にとっては、心の支えとなる寺院のような場所でもありました。



鈴木其一筆
酒井抱一像（伊藤哲複写）

酒井 抱美氏

百回忌法要も、没後一〇〇年
實際、私淑する尾形光琳の

戸琳派の系列としては五十人

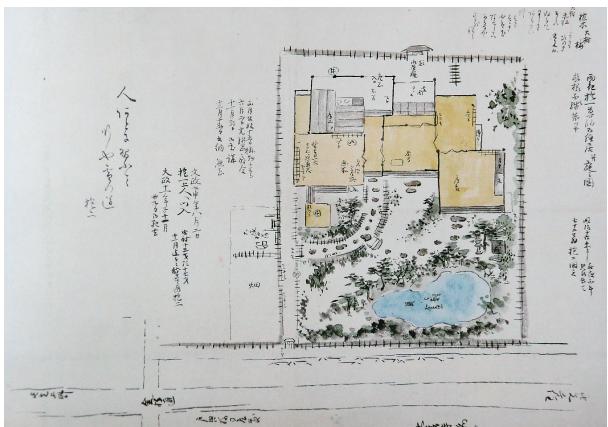
ほどに増え、育ちました。

そのような江戸琳派史に残

る「雨華庵」でしたが、抱一が亡くなつた三十七年後の一

八六五（慶應元）年八月二十

一日に放火とみられる火災で全焼してしまいました。大きな財産を失つたことは残念でなりません。



田中抱二が描き残した「雨華庵図」
(個人蔵)

二、雨華庵 見取り図

ところが思わぬまさかのことがありました。抱一の晩年の弟子の一人である田中抱二がこの雨華庵の詳細な見取り

図を明治十六年、七十二歳の

時に事細かく回顧して描き残

していたのです。台所と四つ

の部屋の間取りはもちろん、

庭の植栽や敷石、また池やそ

の中の魚の種類などまでも細

かく描き込まれていきました。

これにより当時の抱一の居

所や弟子の動向などを察する

ことができ、抱一没後から現

在へと続く江戸琳派を継承、

研究していく上での大変な資

料となりました。また抱一は、

抱一に入門した時から没する

までの日記や雑記帳のような様々な貴重な資料も残しました。

田中抱二は、抱一の最晩年の弟子として一八二四（文政七）年に十三歳で雨華庵門に入り、

亡くなる一八八三（明治十六）年まで抱一を「尊師」と仰ぎ、

晩年の抱一との合作作品もあり、

師匠抱一に対する気持ちは他

の弟子たちよりも強かつたよ

うに思えます。宗達、光琳に

私淑しながら現実の師匠とし

て抱一を仰ぎ、尊敬し続けた

ことがこの雨華庵見取り図に

つながつたことは間違いない

事実だと思います。

そういう実績を考えると、

抱二は一番弟子の鈴木其一や

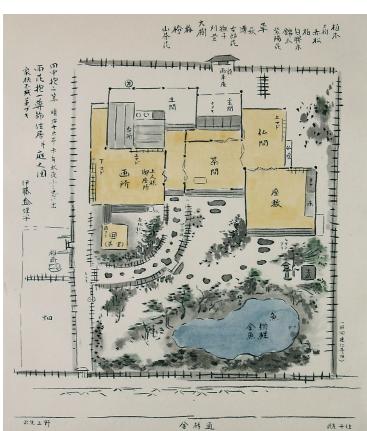
抱一亡き後の代々を継承し続

けた画家たちとは違った意味

料となりました。また抱一は、

抱一に入門した時から没する

抱二筆「雨華庵図」(伊藤哲権写)



三、蘇る「雨華庵」

雨華庵が、江戸時代の終わり近くの一八六五年に火災で全焼してから一五〇年以上が経ちました。

そして、田中抱二が描き残した雨華庵見取り図を基に見事な復興模型が完成しました。作者は、酒井家雅号である「雨華庵」を継承し、江戸琳派作

品を描き続ける日本画家伊藤
哲氏。私、酒井抱美と協力し
合い、江戸琳派普及・発展の
ための活動を始め、約一〇年
が過ぎました。これはその一
つの区切りとなる作品です。

伊藤氏は日本画家でありな
がら、昨年夏以降、画業を一
時中断し、この模型製作に全
精力を傾け完成させました。



雨華庵（模型）正門の扉

「二〇〇八年」酒井抱一 没
後二〇〇〇年」という大きな
節目に向かい、いろいろな
計画がありますが、雨華庵
の再現、復興が計画されれば
間違いなくこの模型が基
本となります。後々まで残
るであろうこの雨華庵模型
を完成まで導いた田中抱一、

早くから江戸琳派に興味を持ち、酒井抱一に私淑し続けた伊藤氏だからこそ為しました作品だと思います。

伊藤氏が語るように、田中抱二の描き残した見取り図がなければ到底実現不可能な作品でした。図面作成が始まり、立体模型の製作、庭造り、池、屋根や門、石畳、また垣根は田中抱二の見取り図通りの建仁寺垣と製作画像を見るたびに大変な作業だったと思います。

むすびに

私は昨年の九月号、十二月号そして今回三月号と三回に渡り拙文を掲載させていただきました。江戸琳派のこと、少しでもご理解いただき、一人でも多くの皆様が興味を持つていただければ幸いです。

人は何が大切で、何が大事かは大昔からわかっているのです。

銀も 黄金も玉も 何せむに
まされる宝子にしかめやも

さて昨年の九月頃はコロナもようやく終息に向かい、国内的には落ち着きを取り戻した頃でしたが、世界はと言うと相変わらずロシアとウクライナ、さらにはイスラエルとハマスの戦争が始まり現在に至っています。ゴーストタウンと化した瓦礫のそばで傷つき震える子どもたちの姿を見るところ

地球全体が温暖化、自然破壊などで危うくなつて いる今、人と人が争い殺し合うといふ愚かな行為が一日でも早く終息することを願い、これから の教育によつて世界に平和が戻るよう教育者、先生方の奮闘努力に期待して私の拙文を終了いたします。

伊藤哲氏に酒井家として謝意、
敬意を表します。

一二〇〇年以前の奈良時代、ある歌人がこんな歌を詠んでいました。

家庭で絵本を読んであげましょう！（第四回）

えほん教育協会 会長
劇団天童代表 沖縄国際大学社会人講師 浜島 代志子

子どもを愛する心

正月早々に能登半島の大地

震や飛行機の事故が起きました。

新春を寿ぐ気持ちがさあっと

冷え、この先、日本はどうな

るのだろうと不安に襲われま

した。何が起きているのだろう。

天は何を語りかけているのだ

ろう。私は子どもたちに何を

残していくのだろう。形ある

ものは全て滅するけれど、消

えて無くならないものがある。



- アンデルセン像とともに -

それは「心」です。「子どもを愛する心」です。絵本や人形劇、ミュージカルや語りを五十年以上も続けてきました。豊かな心情と人格を育てたいと願つてまだまだ続けていますが、足りなさばかりが思われて居ても立つてもいられない気持以上も続けてきました。豊かに立つて生きる子どもたちのために……。込んではいられないのです。

足りなさばかりが思われて居ても立つてもいられない気持以上も続けてきました。豊かに立つて生きる子どもたちのために……。私ができることは何だろう。僅かな寄付と被災地が少し落ち着いた頃に子どもたちに絵本の読み語りをさせてもらいました。行くことが精一杯です。絵本の中で子どもたちに現実とはちがう世界に行つて体験してもらう、心が豊かになってもらう。困難を超えていく力を持つてもらう。絵本の中には知恵や勇気、笑いがある。

共に笑い、共に泣き、共に歩くことができる。現実が厳しいからこそ絵本が与えてくれる別世界が必要だと私は思います。

絵本は、喜怒哀楽の感情を解放してくれるのです。子どもに自信を持たせることができるのです。大人が読んであげると絵本の力が一〇〇倍になります。「字が読めるのだから自分で読みなさい」と言わないのでください。「お母さんは忙しいのよ、絵本なんて読む暇はない」と言いながらスマホをいじらないでください。させないために絵本を読んであげてください。

「心のふるさと」づくり

絵本タイムで

かつて松戸市おはなしキヤ

ラバン活動を行なつていたとき教育長にお願いしたことがありました。松戸では「八時になつたらおはなしタイム」という標語を作つて、広報誌などで一生懸命にPRして松戸市民生活に定着させようとのです。対話しながら読んでも十分くらいで読み終わります。子どもは、お母さんの声を覚えているのです。一生の宝となつて子どもの胸の奥深くにしまわれています。日頃は忙しいお母さんは、どうかすると「あれしなさい、これしなさい、ダメじゃないの、早くしなさい」と命令しがちですが仕方ありません。だからこそ、「絵本タイム」を作つていただきたいのです。

お金や車や家を子どもに残すことができなくとも大丈夫です。子どもの頃に絵本を読んでくれたお母さんやお父さん、おじいちゃんやおばあちゃん、先生や近所のおじちゃんやおばちゃん。普段着の人たちがふつうの言葉で自分らしく読んでもくれたら、それは子どもたちのふるさとです。人には「ふるさと」が必要ですよね。「心のふるさと」は、どこに住んでも残っています。絵本を読んでくれた人の声はふとした瞬間に富んだ言葉に出会つたり、全く別世界の人々に会うこともできます。かけがえのない財産を持つのです。勇気や知恵や愛という目に見えない世界の価値を身につけることができます。

おじいちゃんやおばあちゃん、先生や近所のおじちゃんやおばちゃん。普段着の人たちがふつうの言葉で自分らしく読んでもくれたら、それは子どもたちのふるさとです。人には「ふるさと」が必要ですよね。「心のふるさと」は、どこに住んでも残っています。絵本を読んでくれた人の声はふとした瞬間に富んだ言葉に出会つたり、全く別世界の人々に会うこともできます。かけがえのない財産を持つのです。勇気や知恵や愛という目に見えない世界の価値を身につけることができます。

被災地の人が「絵本やお話を聞きたいよ」と思われる時がくれば、お邪魔にならないようにして絵本読み語りデリバリーに行かせていただきたいと願っています。足手纏いになると体力をつけるおかねば……。

皆さんにお願いがあります。家で絵本を読んであげてください。一日に七分あれば一冊読めます。十五分あれば二冊読めます。子どもの体温が感じられるほど近い距離がいいです。だっこでもいい、膝の中に入れて読んでもいいし寝転がって読んでもいい。親の方が先に寝てしまつてもかまいません。子どもは親の愛を感じ取ります。そういう子どもは、大きくなつて心配ない

のです。親の愛を体で覚えているからです。読んでくれたお母さんやお父さんの声が心中にしまつてあるからです。悪いことをしようとしたとき、どこからともなく声が聞こえてくるのです。親の愛は偉大です。

龍宮城で美人の乙姫様や侍女たちの舞い踊りやご馳走に酔いしれていた浦島太郎は、「太郎、太郎」という切ないお母さんの声が聞こえたのに無視して竜宮城に長居してしまいました。その結果、なにもかも失つてしましました。子どもを思いやるお母さんの声は、

せん。親の愛の証です。純粹で尊いものです。今の時代、あまりにも損得勘定で考え方動する大人が多いように思います。そのような大人を見ている子どもも損か得かで物事を判断するようになります。とても残念で悔しく思います。

は今号で終わりです。お読み

人間は万物の靈長、尊いものです。尊い人間を尊く育てるための最強のツールが絵本です。宝の山がすぐそばにあるのです。図書館の本をたくさん借りて読んであげてください。お気に入りの絵本があれば、買ってあげてください。

絵本習慣をつけませんか。子どもに無視されても呼び続けるのです。子どもに絵本タイムを作りませんか。毎日歯ブラシをするように朝と夜に絵本タイムを作りませ

ました。これからも皆様を全員で応援します。絵本読み語り実演、講座、講演、ミュージカル、語り芝居など、ご希望があればお声かけください。

※参考の本

(一)『一日七分の絵本で子どもの頭はみるみる良くなる!』すばる舎刊

(二)『ママおはなしもつとめて』偕成社刊



連絡先

gekidantendou@gmail.com

tel. 090-7810-6645

子どもの「道徳性」を引き出し、主体性を育てる「動徳」を

時事通信出版局 出版事業部長 坂本 建一郎

「道徳から動徳へ」。社会を

より良くするために「負の連鎖を止める」ことをモラロジー

道徳教育財団の大久保俊輝特任教授（麗澤大学教授）が提唱しています。「道徳」を踏まえて動くことが大切です。どんなに素敵な考え方や正しい考えを持ついても、動かない

が足りない」とが、社会をさまざまな問題を引き起こして

います。

本稿では二〇一三年十二月に公表され、話題となつた世界的な学力調査（O E C D - P I S A 二〇一三）の結果を踏まえ、今、教育関係者や大人は何に取り組まなくてはならないかを確認していきます。

O E C D - P I S A 調査とは



坂本 建一郎氏

Student Assessmentとは、二〇

清協力開発機構）です。

〇〇年から二年）とに行われてきた国際調査（生徒の学習到達度調査）です。読解リテ

P I S A は、世界中の若者が受けており、日本では高校一年生が参加しています。なお、

ラシー、数学的リテラシー、科学的リテラシーの三分野が対象です（リテラシーとは読み解く能力のこと）。義務教育修了段階で、これまでに身に付けてきた知識や技能を、実際に鉛筆で回答しているのではなく、モニター等に向かって、コンピュータを駆使して問題

後で触れる問題も、生徒は紙に鉛筆で回答しているのではなく、モニター等に向かって、コンピュータを駆使して問題

課題にどの程度活用できるかを測ります。実施する主体は

P I S A 二〇一三は、八十

日本も参加している O E C D (Organisation for Economic Co-

operation and Development : 経

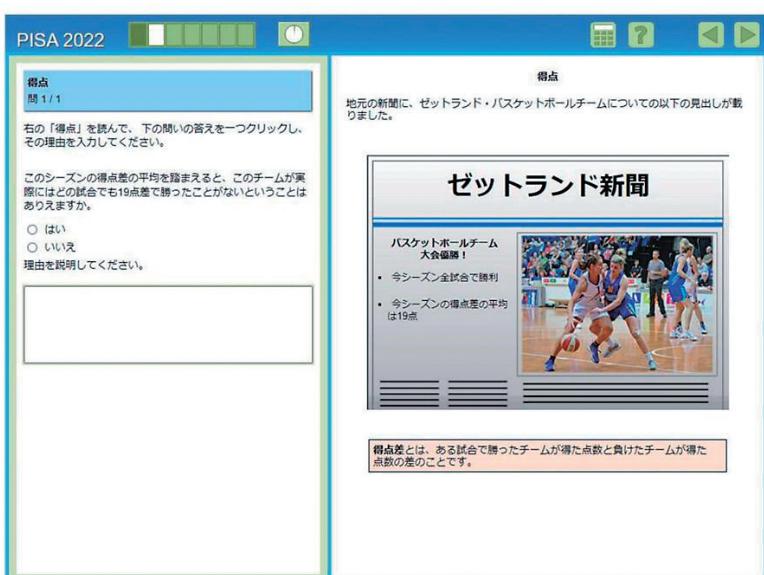
は十四カ国・地域が入っており、

今回、モンゴルが初めて PISA に参加しました。二〇二二年のメインテーマは三分野のうち数学的リテラシーでした。新聞報道や様々なニュースで取り上げられたりもあり、教育関係者の皆さんには、問題の一部を見たことがあるかもしれません。詳しくは文部科学省・国立教育政策研究所のホームページに出ていますので、もし関心がある方はぜひアクセスしてご覧になつてください (https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/02_example_1.pdf)。

「私たち、数学のテストというと、計算問題や、文章題を想像すると思います。ところが、PISA は、実生活の様々な場面で直面する課題をいか



問題例1：各国の森林の面積を表計算ソフトを操作しながら分析し、数学的思考を用いて回答させる問題



問題例2：バスケットボールチームの試合についての報道を読み、そこで書かれていることが数学的に正しいかを回答させる問題

に数学的な概念や知識を持つて解くことができるかを尋ねています。従来型の日本の授業を受けている生徒は面食らうと思います。
例えば世界各国の森林の面積を表計算ソフトに入力し、データを整理して回答させる

問題例1）。
ほかにも変化量や平均値を求めさせると同時に、ある人の意見が正しいかどうか、もし正しければなぜかを説明させることも求めています（問題例2）。

算数・数学は、私たちが今生活している社会と向き合い、社会をより良くする目的の人材に有効に活用すべき手段であることが、PISA の設計思想だからです。

今回の調査結果では、欧米各国が新型コロナウイルス禍で成績を落とした一方で、アジア各国が善戦したことが讃えられました。日本も好成績を収め、日本の学校や先生方はよく頑張ったという評価もありました。ただし、気に入る結果もあり、日本の生徒たちは好成績を収める一方で、不安感も強く、学ぶことそのものの楽しみを感じられていないことが指摘されました。

その一方で、他国においては成績もよく、かつ学びは楽しいと答える生徒の割合が高い国もあります。

学習指導要領を踏まえつつ、

さらにその先へ

こうした PISA 調査からは日常の課題解決の大切さが分かります。道徳も無縁ではありません。

文部科学省「小・中学校学習指導要領解説 特別の教科道德編」では、「よりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考

え続ける姿勢」の育成を求めています。そのための学校における具体的な活動として、「道徳的諸価値についての理解」「自己を見つめる」「物事を多面的・多角的に捉える」「自己の生き方について考え方を深める」ことが必要とされており、それらは「考え、議論する道徳」というフレーズで学校教育ではよく聞かれます。しかし、世界基準で考えると、「考え、議論する」だけでは足りない

議論、あるいは研究のための研究にとどまらず、現在の目前にある社会課題というテーマを解決するものにつながっていなければなりません。

モラロジー道徳教育財団、「携帯版」第一冊』一〇一頁)この中で「行為を改善させ」ならびに麗澤大学の創始者、廣池千九郎博士は、モラロジーの目的について以下のようにな記しています。「モラロジーは「人類の不利益もしくは不幸を醸すがごとき」ことがあります。はいけないとも説いています。

この中で「行為を改善させ」というところが重要です。また、モラロジーの目的について以下のように記しています。「モラロジーは終始その研究の動機・目的及び方法とともに人類に対していわゆる聖人の実行せる最高道徳の原理を科学的に開示して、人類を開発し、もしくはこれを救済し、もって眞に個人の精神に平和を与えて、進んでその行為を改善させ、ついにそ

の新運命を開拓せんとするにあるのです。故にこのモラロジーはいかなる場合においても、人類の不利益もしくは不幸を醸すがごとき要素を毫末にても含むということはあります。

モラロジーの考え方は、人間を超えた存在、例えば自然(気候変動問題やパンデミックなどの世界的課題)にも良い影響をもたらすことが考えられます。まずは足元から。学校教育において道徳教育のさらなる充実が期待されています。

宮古島市立上野中学校 訪問記

—ニューモラル 実践道徳授業の展開—

モラロジー道徳教育財団 横浜モラロジー事務所 生涯学習講師

沼野 文子

上野中学校との 深いつながり

令和五年九月二十三日(金)、常夏の島、宮古島の上野中学
校を訪問しました。

宮古島では、まだまだ夏真っ盛りの上野中学校へ、道徳講話にお邪魔させていただきま



沼野 文子氏

今回の訪問のきっかけは、沖縄モラロジー事務所の荷川取ツルさんたちが、ご自分の

出身校である上野中学校に長年『ニューモラル』誌を届け、

を迎えてくれました。校舎は

て看板。びっくりして嬉しかつたです。

玄関に入つてすぐ、落ち着いた穏やかな空気が、私たち

よく掃除が行き届き、生徒たちの挨拶が、元気ではつらつとして、嬉しくなるような第一印象でした。



宮古島市立上野中学校「玄関」の立看板

実際の授業風景

- 自分のためではなく、人のために何かをしてあげた時

(すごいね)

一年生の教室で、『ニューモラル』誌の「やる気を育む」を使って、生徒たちとのやり取りを中心に勉強しました。

- 忙しい母の用事を手伝つてあげる時。私は、お母さんが喜ぶのが嬉しい

(みんなで拍手喝采)

午後一番の授業で眠い時間だったと思われましたが、皆さん、ちゃんと前を見て私が何を話すのか興味深そうに一生懸命聞いてくれました。

『ニューモラル』誌を輪読して、質問をしました。

このようなことをさらりと発言できるご家庭のしつけのすばらしさを感じました。私は中学一年生でそのようなことを考えられることに驚きました。

「皆さんができる気になる時って、どんな時?」と列の間を歩きながら、沢山の生徒に質問してみました。

- ライバルに負けたくない時

(わかるわかる)

まとめとして、人生は「価

値判断の連続」で出来上がつ

て、どのくらい話をしました。「価値判断」は一日に何回も価値判断を続けてきた結果で今、皆様の前に立つ

うな価値判断をしていくかで、「どうぞ、皆さんには毎日、正しい価値判断をして、素晴らしい



授業風景

い人生を送つてください」と
結びました。

この後、感想文を書く時間
があつて、生徒代表のお礼の
言葉を受けてから、校長室に
戻りました。

学びのヒント



生徒代表お礼のことば

上野中学校は創立七十五年。
代々の校長先生の写真が飾っ
てあり、「博愛」を学校のモット

トとして何と、現在、上野中学校
では、「いじめ、登校拒否、ゼ
ロ」だそうです。宮古島市の
他の中学校では、いじめや登
校拒否が少しあるそうですが
⋮。

文科省はこの事実をご存じ
なのでしょうか？ 本土では、
いじめ、登校拒否を無くそ
とやつきになっていますが、
上野中学校にそのヒントがあ
るよう思いました。

ということで、大変良いも
のを見せていただき、すがす
がしい思いで学校を後にしま
した。

トーしています。

だからか、学校に入った時

の空気は、すがすがしく、私

の質問への生徒の答えに対す

るクラスの反応が優しい。そ

して何と、現在、上野中学校

モラル』は、心豊かな人生、
楽しい家庭、明るい職場、
住みよい社会をつくるた

めの日々の心づかいと行
いのあり方を提案し、読
者の皆様と一緒に、これ
からの生き方を考えてい
きたいと願っています。

●ニューモラル



【年間購読料：一、四三〇円
(税込)
(令和六年三月末まで)

なお、令和六年四月号
以降の購読申込については、
新料金体系を適用し、【年
間購読料：一、五六〇円(税
込)】とさせていただきます。

※年間購読をご希望の方は、
次のURLか(ecmorality.jp)
QRコードをご活用ください。



『彼との出会いに感謝』

モラロジー道徳教育財団 学校教育センター長 川原 容一



川原 容一 氏

新しい小学校に赴任して、新学期が始まった四月のある日。二年生のぼつちやりとした男の子が校長室に入つてきました。「ボク、先生の部屋で注射していいですか?」
「どうしたの?」「ボクね、給食を食べる前に必ず注射しなくてはいけないんです」

理由も聞かず、「いいよ」と答えました。

彼は、持参したバツクから注射器を出して、自ら腿に注射しました。びっくりして「何の注射なの?」と聞きました。

「保健室」「どうして、ここへ来たの?」「ここに来る前は、どこで注射していたの?」「慣れてるよ」

また、ある時、「先生は、お寿司好き?」と聞かれました。「ああ、大好きだよ」と答えると「先生、ボク、将来、お寿司屋さんになつて先生の好きなお寿司を、お腹いっぱい食べさせてあげる!」と話してくれました。

その後、来室するたびに、彼は同じ言葉を繰り返しました。一学期も終わり、彼は特別支援学校に転校することになりました。別れ際に、ご両親から「息子は、先生のことがあ

「ボクね、1型の糖尿病なんです。今打ったのは、インシュリンです」

驚きました。当時の私は、その病気について知らなかつたからです。

「痛い?」「ううん」首を横に振りながら、彼は、

「もう、ずっと打つているから、慣れてるよ」

低血糖に陥つたときは、口に入れれるそうです。

好きでした。お寿司屋さんになつて、先生にいっぶい食べてもらうんだとよく話していました」と聞きました。彼には、いろいろと教えてもらいました。彼は、今頃二十歳の成人式。今も寿司を腹一杯食べさせてもらうのを楽しみにしています。

メルマガ配信

川原学校教育センター長
が自ら記事を書き、毎月二回配信しています。何のためか、もちろん、先生方を応援したいからです。是非ご登録ください。

配信希望の方は、以下のQRコードより申し込みください。
<http://bit.ly/sc-morality>



学校のちょっといい話③



千葉県我孫子市立
我孫子第二小学校
元校長
鍵山 智子

「放課後の 生徒の姿から・・・」

組み、級友とも良好な関係を築いていました。大柄で、サッカーや他のスポーツも上手にこなす彼が、黙々と小箱を磨いている姿は、当時の私にとっては少し意外な感じがして、声をかけたのを覚えています。

「とても、きれいに磨きあげて、仕上がりが楽しみだね。

中学校現場のある日、学年日直で廊下の窓の施錠を確かめ、ふと教室をのぞくと、美術の木彫の小箱を熱心に紙やすりで磨いているKくんがいました。彫刻刀で刻まれた作品自体もすばらしいできばえでしたが、紙やすりで磨いた断面の滑らかさは、さらにその作品をひきたてるような丁寧な仕上がりでした。

日頃から、K君は、口数は少ないながら、優しい笑顔で班活動や掃除にも黙々と取り

います。今も依頼が来ると、全国各地を飛び回っています。僕もいつかは、「宮大工になりたいと考えているのです」と将来の夢を語ってくれました。K君の学校生活の中のほんの一部分しか気づけていなかつた私は、彼の言葉に何かはつとさせられるものを感じました。

その時、なぜか私は、学生

時代に従兄と愛知県犬山市にある明治村に行つたときのこと、私は、K君に声をかけました。すると、彼から「先生、宮大工って知っていますか」と突然聞されました。私は、「実は、私の従兄が大工なので、大工の中でも神社仏閣を専門に建てる方のことを宮大工というのだと聞いたことがあります」と彼に答えました。彼は、「そうなんですね。実は、僕の父は宮大工をしていて、全国の神社仏閣の修復をして

います。今も依頼が来ると、全国各地を飛び回っています。

て臨んでいる従兄の姿がまぶしく見えました。

K君の手元の作業を邪魔しないように、その話を伝えたところ、彼は作業を続けながらにつこりして、「そうした見方ができるところも、ものづくりのよさなのだと思います」と素直に応じてくれました。その姿は、彼の未来の姿を印象づけるものでした。

その後、彼の作品は学校代表となり、級友たちも感銘を受け、作品の工夫点や苦労した点などを彼に質問していました。そして、皆は、彼が「宮大工になりたい」という夢を持っていますことを知りました。それから、学級で「将来どんな職業に就きたいと考えているか」について話し合う機会に繋がったことが思い出されます。

小さな日常のほんの些細な一コマですが、放課後の生徒の姿から私自身も成長させてもらえた貴重な時間でした。

学校教育センターの活動を紹介します!!



≪オンライン勉強会≫

無料



『第3回 教師の教室』3/23(土) 19:00 ~

学校の先生だけでなく、教育に関心のあるすべての方々を対象にしたzoomでの勉強会です！

どなたでもお気軽にご参加をお待ちしております！

zoomリンクはLINEオープンチャット「動徳ゼミ」よりご案内します↑

教 育 相 談 “ちょい聴き”

—教えて！大久保先生—

おススメ過去動画紹介

2/11は
柏に集合！

ゲスト：坂本建一郎氏
(時事通信出版局出版事業部長)



世間は大変な年始となりました。
実は私も衝撃の年越しとなりました。
今年も元気に参ります。



ご視聴はこちら

2月の
配信予定

2/10 「辞めない社員の育て方」の魅力を解説！

ゲスト：坂本建一郎氏(時事通信社)

2/24 柏道徳祭の映像を一部公開！

人は、相手を変えようとするほど責めたり比べたりしてしまいます。自分も、自分の顔の墨は取れません。すんなりとはいかない時もあります。しかし、人は「誠実さ」が難題解決の最大の武器になります。それは「対話」であります。戦争の反対は何ですか?「平和」など抽象的です。だから私は、「諦めない対話」だと言い続けています。ボイントは、嫌な人にこそ「自分から先に挨拶をするのです」これができるとその人の周りから「負の連鎖」はなくなつていくのです。皆さんも「人は写し鏡」と考えて、自ら「行動する道徳」を積み重ねていきませんか。

◆編集後記◆

編集長 大久保 俊輝